



令和二年 九月

## 活動報告

令和元年 九月／



令和元年

九月

文化祭

二〇二〇年の茶道部

桐井 海舟

十月

オープンスクール

茶道を通して  
自粛中の願望

塩谷 五郎

令和二年

一月

お初釜

初めての事態  
茶道と出会つて

小林 由和

四月  
七月

大茶盛

川口 慶人  
大前 天誓

作陶  
家元見学

浅井 悠貴  
福井 康太郎

昨年の文化祭

塙本 遼平

桐井 海舟

昨年（二〇一九年）の文化祭

塙本 遼平

茶道部の思い

塙本 遼平

茶道部での三年間・部への思い

塙本 遼平

今年度ならではの経験

塙本 遼平

不審庵のビデオを観て

塙本 遼平

伝統文化を学んで

塙本 遼平

三田 龍之介

三田 龍之介

黒澤 春陽

黒澤 春陽

鈴江 威徳

鈴江 威徳

※四月以降の行事は、コロナの影響で中止  
されました。

二〇一九年度卒業生より  
『茶道部』三年間を振り返つて

池田 遥紀

山下 瑞介

## 目次

## 一一〇年の茶道部

桐井 海舟

今年は、新型コロナウイルス感染症予防のため、茶道部としてのお稽古をする回数がとても少なく、またあつたとしてもお稽古の時間がとても短かったです。僕は茶道が大好きだったので、自分の好きなことができずとても憂鬱でした。幸いなことに、僕の家では母が茶道をやっていたこともあり、お道具が揃っていたので、この期間は家で練習したりしていました。

そんな中でも一番悲しかったのは、文化祭がなくなってしまったことです。なぜなら、文化祭で日頃の練習の成果を母に披露できたからです。その日まで必死に練習して上手になろうと思つていましたが、目標を失つてしまいました。そんな時に先生が「新しい目標をもつて頑張ろう」と励ましてくれたので、僕は「お

手前の手順を完璧に覚える」ことを目標に頑張ろうと思います。

早く新型コロナウイルス感染症が治まってくれることを願います。

のようなものは稽古の一連の流れにおいて何度も見られるものであり、茶道が最も重要視しているものだと若輩者ながら僕は感心しました。日本の四季に沿って変化する茶道もやはり、この点は変わらないものであります。

## 茶道を通して

塩谷 五郎

僕が茶道部に入部したのは高校一年生の頃であり、今年の新型コロナウイルスの影響もあって、茶道部の活動に参加できただけで、この期間は家で練習したりしていました。

そんな中でも一番悲しかったのは、文化祭にも出展することができず、仕方のないことであります。悔しい限りです。今となつては、中一から入部していればよかつたという後悔の念さえあります。

## 自肃中の願望

小林 由和

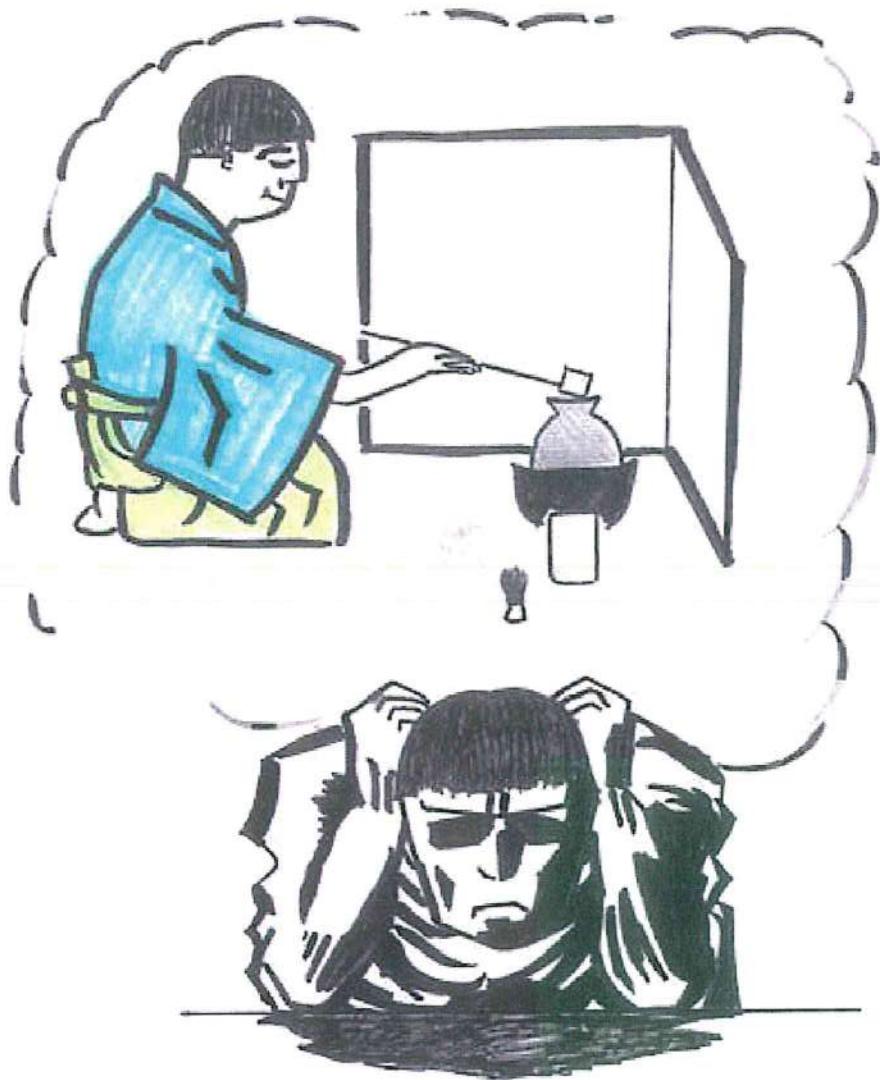
三月から五月下旬まで続いた自肃は、私達部員から茶道という大切なものを

奪つた。毎週のお稽古や、待ち望んでいた文化祭もコロナの影響で再開できるのが分からぬ不安の日々を過ごすことになつた。

自粛期間中、家にずっと居る、単調で面白みのない日々が過ぎていつた。特に無性にお抹茶を飲みたい衝動にかられるとともに、また皆でお稽古をしたいと思つた。

ようやく学校が始まると思ったが、しばらくは分散登校が続き、相変わらず部活は再開しなかつた。しかし、緊急事態宣言が解除され通常登校が始まると、部活も再開され、およそ三ヶ月ぶりにお稽古を行うことができた。

自粛期間を経て、これまでよりも一層日々のお稽古に力を注ごうと思う。残り少な時間ではあるが、お手前への理解を深めていこうと思う。



## 初めての事態

川口 慶人

新型コロナウイルスで茶道部が休みになってしまった、お稽古ができなくなってしまいました。

初めの時は、中国の武漢で新しいウイルスが見つかることは知っていましたが、ここまで拡大するとは思いませんでした。しかし今までになかつた事態にもかかわらず、まだ茶道部の中で感染した人を聞いていないので良かつたと思いました。ですが、緊急事態宣言が出されたことにより、数少ないお稽古が無くなってしまうと文化祭にむけての練習ができなくなってしまうと思いとても悔しい気持ちになりました。

今では文化祭も無くなってしましました。最近やつとお稽古が出来るようになりますが、いつ第二波が来てもおかしくない状況なので一回一回のお稽古を大

切にしようとおもいました。そしてワクチンが開発されて新型コロナウイルスが早く終息して欲しいです。

## 茶道と出会つて

大前 天誉

『一期一会』という四字熟語を知っていますか？

一期一会とは茶道に由来する日本のことわざ・四字熟語。茶会に臨む際には、その機会は二度と繰り返されることない、一生に一度の出会いであるということを心得て、亭主・客ともに互いに誠意を尽くす心構えを意味する。茶会に限らず、広く「あなたとこうして出会つているこの時間は、二度と巡つては来ないたつた一度きりのものです。

僕は、いま高校三年生で中学一年生のときから茶道部にはいっています。茶道を

していくおもったことはやはり一挙一動が相手相手へのおもいやりでできているということです。これを学ぶことによつて日々の礼儀作法がみにつき、昔は人見知りなのでできなかつたのですが学校の先生方に朝の挨拶ができるようになります。

さらに、茶道を学ぶことで日本の伝統文化を知り日本という国の文化の素晴らしさを感じました。日本の文化では時間厳守はあたりますが、外国ではちょっと遅れたからなんだくらいの感覚です。そのときも、日本人としての価値観を知つていることによりまわりにながされることはなく、そういう思想を維持できることもこれからグローバル社会では大切だと思います。このように、茶道を学ぶことは人間性を高めることにも繋がるので日本人として一度は経験してよかつたと思いました。

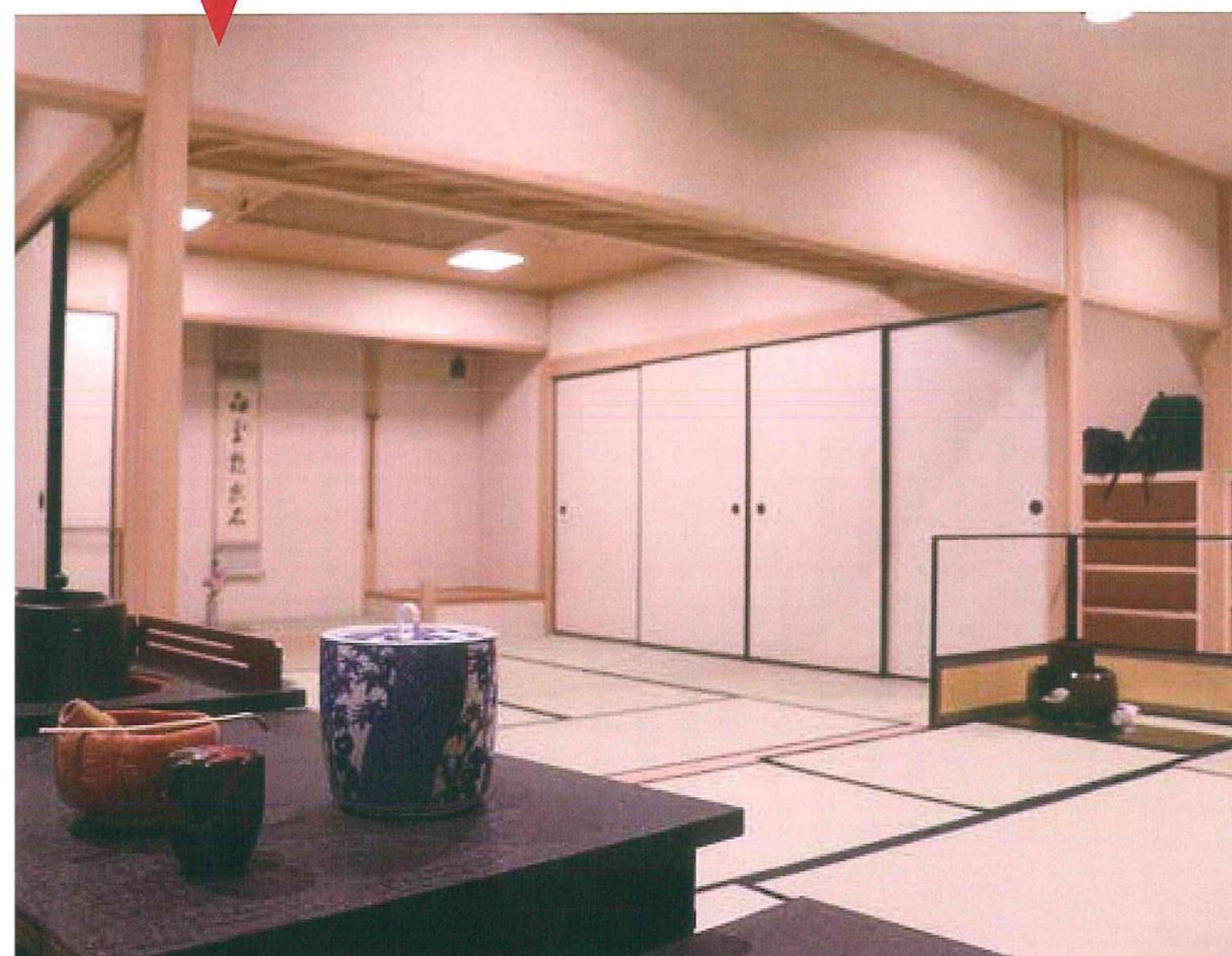
ピリッと

背筋が伸びるような

空間・・・

でもそれが心地よい。

この感覚を  
是非！体感して  
ほしいです。



## 茶道部に入つて…

浅井

自分は元々、茶道に興味がありました。なのでクラブに入部できる一年の六月頃に部活の曜日を聞きに行ってみました。すると、火曜でした。

その頃の僕の火曜のスケジュールには暇な時間帯が全くなかつたので、あれやこれやと火曜のスケジュールを空にした時には、時すでに遅し、一月でした。ひとまず入部する前に見学として初めて茶道部に行つたのですが入つて五秒くらいに仰天しました。何故なら、しつかりとした茶室があつたからです。僕としては最初普通に教室なのかと考えていたわけですから心の中でとても恥ずかしい思いをしました。（耳が真っ赤だつたかも…）その後も二回見学に行きましたが作法は頭の中にむずかしすぎて全く入つていませんでした。

## 昨年の文化祭

福井 康太郎

この時自分は一つも覚えられなくて少し悔しかつたのですぐさま入部して一ヶ月後にやつと袱紗捌き（ふくささばき）を覚えました。けれどもコロナの影響で六月まで休みが続いたせいで新一年生の見学が始まってしまいました。この時自分がとつては絶望的だったのに毎日帰つて（母の）茶道についての本を読みました。おかげで自分のメンツは守れました。そしてついこの前にコロナで表千家にいけなくなつた高校二年生の方たちの為に先生が表千家についてのビデオを流してくれました。流派が二つだけではなく三つもあつたことや、千利休の銅像が祀られていた事など色々知ることができたので高一になるまで覚えておくつもりです。

最後にですが僕のように入部したいけど後輩たちが新しく入つてきそうな状況でも、裏で色々と工夫を凝らしてみればやり通せる道があるはずだと思います。いつでも新入部員を歓迎しています。

昨年の文化祭の成功には、先輩方の計

中学三年となつた今、昨年の文化祭を振り返つてみると、とある変化を通じて、茶道部が発展したなど、思っています。

とある変化とは、一昨年の文化祭まで理事長室をお借りし、活動していましたが、

昨年からは茶道部念願のお茶室ができ、和室で『お・も・て・な・し』するようになつたということです。お茶室と隣の

教室での教室での活動が決まり、これまでとは違つた形の進行となりました。

茶道部にとつては、初の試みで、果たしてうまくいくのだろうかと思いましたが、

先輩方が綿密な計画を練り、無駄なく対応できるようにしていったので、感嘆しました。その結果、少しは問題もありまし

たが、全体的に見れば、安定した活動ができたのではないかと思います。

画と、各部員の努力が密接に関わっており旧高三生の努力に脱帽しました。我々に良い教訓を与えていただきました。

現在新型コロナウイルスによる長期休校が、各所で大きな余波をもたらしますが、そのような中でも今できることを、一生懸命にこなしていくことが大切だと思います。今後も、私たちは、自らの研鑽に勤しもうと思います。

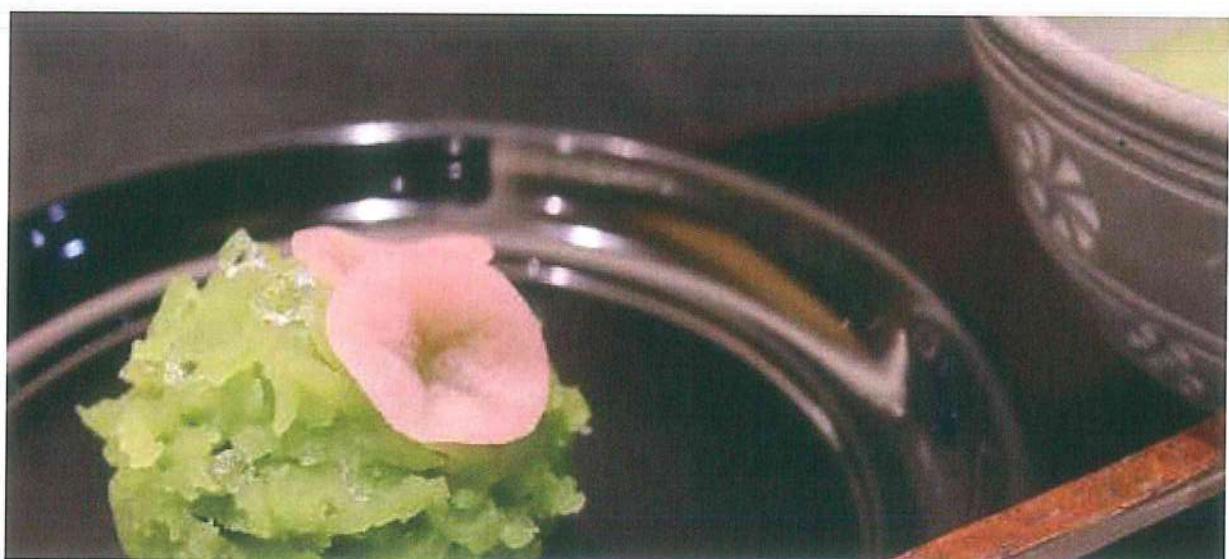
しかし、皆が初めての事に戸惑いながらも、何とかしてうまくおもてなし.TODOするよう、互いに助け合った事で、おそらく、今まで以上に部員同士の連帯感が増したように思われました。皆が協力して文化祭を乗り切れた要因としては、引退された先輩方がしつかりとシフトを立て、それを後輩に伝え、自ら率先して行動していたことが挙げられます。適切な指摘アドバイスで全体をまとめ、お客様に対しては真心のこもった美しいお点前でうまくもてなしており、私はその光景を見て感動しました。

今年の文化祭では（新型コロナウイルス感染予防の観点から、中止）、私達新高校三年生として、部員の中心となり、茶道部を上手く運営し、お客様に楽しい体験をしていただけるように、頑張つていきたいと思います。

## 昨年（二〇一九年）の文化祭

塚本 遼平

昨年の文化祭で、私たち茶道部は大きな転換期を迎えるました。一昨年までは理事長室のみでお手前をしていましたが、昨年から茶室とその隣の教室を使い、お手前をするようになりました。場所ごとにお手前の形が変わり、お客様の量の調整や、どんどんと運ばれる茶碗や食器



## ちょこッと 豆知識

### 茶花

器は地味な『一輪挿し』である場合が多く、あくまでも、お茶の席を彩る存在であり、生け花のような華やかな自己主張はしません。

でもどこか凛としたものを感じます。

春	夏	秋	冬
白木蓮	黄梅	猫柳	黒文字
花水木	木瓜	山吹	雪柳
		大手毬	貝母
小鬼百合	露草	待宵草	藤空木
唐松草	大葉擬宝珠	金水引	
楓	ほどごす	野紺菊	寒木瓜
水引	我木香	つりがね人参	山萩
梅椿	蟠梅	胡蝶侘助	
	水仙		



さて、この花の  
名前は？  
季節は？

## 茶道部の思い

長谷川 泰星

僕は茶道部に入つて三年目になります。

茶道部では、毎年お茶碗を作りに行つたり、お茶会への参加などの、課外活動も行つて着きました。そして僕は文化祭でのお手前の披露を一つの目標として頑張つてきました。

ですが、コロナウイルス騒動のことでのこれらの全ての行事が無くなってしまいました。それでも、この騒動でお手前が出来ない分、次の文化祭では、『今よりもっと美しいお手前ができるように』と向上心を持つて今まで以上にお稽古に取り組んでいます。そして、来ていただけた方に最高に美味しいお茶を飲んでいただけることを思つて頑張っています。

最後にこの男子校では珍しい茶道部に入れて、良い先輩や良い後輩に出会えて最高に幸せです。そして文化祭では、そ

の様な人が心を込めて作る最高のお茶をぜひ飲みにきてください！

## 茶道部での三年間・部への思い

三谷 駿

私が茶道部に入ったのは二年前、高校一年生の秋だった。初めて見学に行つた時学校にまだ茶室は無く、学校近隣のマシンションの一室が茶道部の活動場所だつたのを覚えている。初めてお点前をやつた時、やり方が分らず全くついていけない日々だった。先輩方後輩たちのやり方を見ても、自分の物覚えの悪さなどが災いし、ほとんど覚えることができなかつた。自分の番になる度、みんなの手を煩わせてしまう。何度も罪悪感に駆られてしまった。そして未だに自分は一人でお点前ができない。ただ最初の頃より少し

な自分で、茶道が好きだ。この部活が好きだ。その気持ちだけは三年間変わらずに持ち続けたと胸を張つて言うことが出来る。

二年生の時には、宇治の陶芸工房で作陶に行つた。自分流の器を作ることができた。そして上京区にある表千家の家元「不審庵」にも訪れた。そこで表千家流の茶道のルーツを知ることができ、とても勉強になつた。文化祭は委員会などもありほとんど行くことができなかつたものの、クラブ員全員が頑張つている姿を見て、自分も頑張らなくては…とより一層気持ちが引き締められる思いだつた。様々な貴重な体験ができた、充実した年だつた。

今年に入つて緊急事態宣言が発令され、お稽古自体が出来なくなつてしまい、部員のみんなと長い間会うことができるなかつた。二ヶ月間寂しい気持ちでいっぱいだつたが、宣言解除後初めてのお稽古の日、後輩たちの顔を見て、何より前と

変わらず元気そうだったことにとても嬉しく感じた。

私はこの先、この楽しかった部活動の思い出を忘れる事はない。大学以降もまた茶道を続けるかは現時点では未定だが、御免状もいたいたのでどこかで触れる機会は恐らくある（かもしれない）。そのときは自分で一通りの作法を覚えておくことが課題だ。最後まで未熟者だった自分だが、日本の伝統的な文化の一つである「茶」の文化を、この身をもって知つて体験できただけが何より最大の成果だつたのではないかと思う。そして和気藹々としたこの部活で先輩や後輩の垣根を超え、最高の仲間と出会えたことに心から感謝したい。こんなダメな自分を様々な場面で支えていただき本当にありがとうございました。最後に先生方へ、高校一年の秋といふ途中から入り作法を忘れて何度も失敗した自分を、その度ご指導・ご鞭撻いただき誠にありがとうございました。今後も自分は環境が変わつても、諦めること

なく努力して邁進し続ける所存です。努力してまいりますので今後ともどうぞよろしくお願ひします。

思いの丈を書き切つたので、私はここで筆を置くことにする。本当にありがとうございました。では。

## 今年度ならではの経験

黒澤 春陽

高校二年生は、例年、表千家の家元見学に行くのですが、新型コロナウイルスの影響で行くことができなくなってしまいました。高校三年生では補習の日程と重なるということで、高校二年生でしか行くことができないのですが、行くことができなくなつてしまつて、残念に思いました。

僕たちは新型コロナウイルスで約三ヶ月間、登校することができませんでした。その間、SNS等で連絡が取れるけれど、生で直接は会えない家で、孤独な状態になり、とても寂しかつたです。当初、登校しなくともいいので楽そうだなと思っていたのですが、時間が経つにつれ、休校中は家でできる事に縛られて、自由な活動ができないため、時間が惜しいとも感じました。それからは、復習や、遅

れの分を予習したりしました。ですが茶道については、家には、道具がないので、何も練習することができませんでした。少し、不安だつたのですが、また先生が教えてくれて、すぐ元戻りになりました。よく先生に、頭ではなく体で覚えるようにと言われていたのですが、体で覚えるとはこれのことだつたのか、と思いまし。勉強でもまた、体で覚えるような、残りやすい勉強をしていきたいと感じました。

高校二年生は、例年、表千家の家元見学に行くのですが、新型コロナウイルスの影響で行くことができなくなつてしまつた。高校三年生では補習の日程と重なるということで、高校二年生でしか行くことができないのですが、行くことができなくなつてしまつて、残念に思いました。この表千家の家元は、厳格なところでなかなか行くことができないと聞いていたので、また将来行く機会があつた時には、行けたらいいなと思いました。

今年は中止になりましたが、昨年の文

化祭は理事長室ではなく、新しく完成した茶室と、その隣の教室を使っておもてなしをしました。

二つの教室に増えると部員がその分必要なのですが、部員が少ないため、現状ではどうなるかわからぬ状況です。茶道部は「道」と入つており厳しいイメージがあるかもしれません



んが、実際は、和菓子が食べられたり、自分のお茶碗を作りに行ったりと、楽しい事ばかりです。

是非、中学・高校時代に茶道部に入部してみませんか。一度体験入部に来てみてください。茶道部一同、お待ちしています。

体験をしていただけるように、頑張って

私は表千家の家元についてのビデオを観て、掛け軸とお花の拝見から、お道具の拝見までの移動で遠回りをする意味を知らず、亭主の用意したお道具を傷つけないようにするお客様の亭主に対する配慮を知り、私はお客様の亭主に対する配慮がみられる作法が他にないか興味を持ち、今後は作法の意味を意識してお稽古に励むようになります。

障子の組子をひとつひとつ掃除したり、葉一枚一枚を丁寧に拭き取るなど、お客様が見えないような所も掃除をする亭主の配慮に驚き、実生活においても、お客様が来た時に備えて、お客様の見えない所まで掃除をするなどのもてなす心を大切にしたいと思います。

## 不審庵のビデオを観て

鈴江 晟偲

いきたいと思います。

これからのお稽古では作法の意味を意識して取り組むようにし、人間関係においてはもてなす心を大切にしていこうと思います。

## 伝統文化を学んで

三田 龍之介

私が茶道部に入部して約二年。茶道の経験が全くなく、かつ高校一年の冬休みに差し掛かる時期にもかかわらず、心温かく迎えてくださった小西先生をはじめとした諸先生方、入部したての頃から面倒を見てくださった先輩方には感謝の言葉以外見つかりません。

昨年の文化祭で、部長という大役を任命いただいてから、私自身、微弱ながらもより明るく楽しく学べる、しかし決して茶道を軽んじることのないような部活動を念頭に、後輩達に接するよう努力し

てきたつもりですが、私にも不完全な部分が多くありました。それを見つけ出して、課題とし次に続ける、その繰り返しが部活動だけでなく『伝統文化 茶道』の心得の一つであると学びました。

短い間でしたが、千利休より四百年間絶えることなく続いている伝統文化茶道を通して学んだ心得を忘れず、糧としてさらに努力していきたいと思います。

二年間という短い間ではありましたが、お世話になりました。

本当にありがとうございました。



## 『茶道部』三年間を振り返つて――

二〇一九年度卒業生 池田 遥紀

高校一年で茶道部に入部してから三年で引退するまであつという間でした。その中でも、高二の時に部長に任命いただき、仲間に助けられ、四苦八苦しながらもこの茶道部の活動を一年間大穢なく過ごすことが出来たことは大きな喜びであるとともに肩の荷がおりた安堵の思いもあります。私が部長としてやつてこられたのは同期の仲間の助けや顧問の先生方のご協力、そして信頼してついてきてくれた後輩たちのおかげです。特に印象深かった活動は、引退前の文化祭です。二〇一九年から清淨庵という新しく出来た茶室でおもてなしをすることになりました。さらにその隣の教室も使用し、文

化祭での活動はこの二箇所で行いました。

私たち高三生が中心となるため、文化祭前、私たちは部活終わりにずっと綿密な準備をしてきました。二箇所でおもてなしをすることは初の試みであつたため、思うように準備が進まなかつたりすることもありましたが、なんとかみんなで乗り切りました。文化祭初日が終わつたあと直ぐに一人一人の反省を聞き、それを踏まえた上で予定を調節し直して二日目に備えました。それらの甲斐があり、文化祭は二日とも大盛況でした。なによりこの文化祭で一番良かったと思うのは、部員たちのチームワークです。互いに信頼しあえたからこそ、文化祭での成功があつたのではないかと思います。

三年間ありがとうございました。

また、茶道部では恒例として毎年文化

祭で部誌を発行しているのですが、今年はこれの作成が一番手間取りました。毎年の先輩方は前年のものを超える作品を目指して部誌を作成しており、私たちもそれに則り、去年の文化祭が終わってから一年間かけて構成を練つてきました。まとめの期間は特に忙しく、顧問の先生にも大変迷惑をかけたと思っています。しかしそのおかげで、部誌は皆が最高の出来だと納得できる部誌に仕上がりました。二〇二〇年は、それを優に超えてくれるような最高の部誌を期待しています。

最後に、私にとって、清風学園に茶道部があり入部できたことは、この学校生活においてとても有意義なことでした。茶道部を通じて得た経験は生涯でかけがえのないものになると確信しています。小西先生はじめ顧問の諸先生方には感謝しかありません。

高一最初の化学の授業は、私の人生を変えた時間といつても過言ではない。中西先生の

勧誘で私は中学の頃から気になっていた茶道部に入ることになった。私は以前から個人的に裏千家で茶道を習っていたため、表千家の作法に慣れることができるか不安だったが、

小西先生の熱いご指導や先輩方のアドバイスのおかげで、高一の文化祭には表千家の作法でお手前ができるようになっており、茶道の面白さを改めて感じた。

しかし、茶道部で学んだのは単に作法だけではない。一つ目は作陶や月釜、そしてお茶室披きなど、他校の茶道ではなかなか体験できないであろう数々の行事に参加させてもらつたことだ。特に、お茶室披きは本格的なお茶室「清淨庵」をお客様をお招きしてお手前ができ、一生忘れられない思い出になつたと思う。二つ目は相手のことを思いやり、臨機応変な行動を意識するのを学んだことだ。相手が何も言つていなくとも、自分がされて

うれしいことを率先して行うのは社会を生きていいくうえでも大変重要であると思うので、卒業後も実践していきたい。

あつという間の二年半の茶道部生活。夕方の三時間のお稽古が、日常を離れてお手前という一つのこと集中できた素晴らしい時間だつたように思える。

大学生になつても茶道部で学んだことを忘れずに夢に向かつて歩いていきたい。



部員十五名

高校三年生

三田 龍之介（部長）

大前 天誓

小林 由和

塙谷 五郎

塙本 遼平

三谷 駿

高校二年生

黒澤 春陽

鈴江 晟偲

高校一年生

桐井 海舟

中学三年生

長谷川 泰星

中学二年生

福井 康太郎

中学一年生

浅井 悠貴

川口 慶人

中学一年生

柳田 薫

山田 大雅

茶花の答え  
藪椿（椿）春の花

